

次世代無線LAN WiGig【成田国際空港(株)】

2015年度時点の課題または目標

高速・大容量通信を可能にする次世代高速無線LAN WiGig(ワイギグ)を導入し、WiGigを利用したコンテンツ配信サービスを提供



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

【2016年度】

WiGigの実証実験、コンテンツ配信サービスの体験会を実施(2017.2)

【2018年度】

コンテンツ配信のビジネスモデル策定(2017年度から継続)

今後の取組内容、改善点

【2018年度ー2019年度】

- ・スマートフォン等のデバイスにおける高速無線LAN規格の一般化動向を注視
- ・ビジネスモデルの継続検討

第三者評価体制の有無

無

第三者評価体制・評価時期

無線LAN環境の整備【成田国際空港(株)】

2015年度時点の課題または目標

- ・利用客の増加に対応した無線LAN環境の整備(アクセスポイントの増加、容量の拡大等)



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

【2014年度】

- ・利便性向上の為接続時のメールアドレス登録をなくし、接続手順を簡略化

【2015年度】

- ・インターネット回線の増強(=成田空港専用の回線を整備)を実施(2015年4月)
- ・インターネット回線の速度増強(300Mbpsから800Mbps)を実施(2015年8月)

【2017年度】

- ・接続手順の更なる簡略化(接続開始画面の自動表示、規約・セキュリティに関する同意画面の一本化(2017年7月))

【2018年度】

- ・インターネット回線の速度増強(800Mbpsから900Mbps)を実施(2018年5月)
- ・入国審査場内にアクセスポイントを設置(2018年8月)

今後の取組内容、改善点

[2018年度]

- ・インターネット回線の速度増強(900Mbpsから2GB)を実施予定

[今後]

- ・引き続き、通信状況を確認し、必要に応じて更なる対応を実施予定

第三者評価体制の有無

無

第三者評価体制・評価時期

無線LAN環境の整備【日本空港ビルデング(株)】

2015年度時点の課題または目標

- ①利用客の増加に対応した無線LAN環境の整備
- ②アクセスポイントの増加・容量の拡大



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

- 【2016年度】
 - ・専用回線の設置による回線の容量拡大
 - ・国内線ターミナル・国際線ターミナルにおけるWi-fi認証の一体化
- 【2017年度】
 - ・館内アンテナの容量拡大

今後の取組内容、改善点

- 【2019年度】
 - ・安定稼働に向けた設備更新(アクセスポイントの増加等)

第三者評価体制の有無

無

第三者評価体制・評価時期

無線LAN利用手続きの簡素化【総務省総合通信基盤局】

2015年度時点の課題または目標

- ・事業者の垣根を越えてシームレスにWi-Fi接続できる認証連携の仕組み（2018年までに20万箇所以上）の構築を目指す。



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

今後の取組内容、改善点

【2015年度】

- ・総務省において、無線LANのシームレスな連携が実現できるよう、(1)共通の技術仕様の策定、(2)実証実験の実施、(3)全国各地への普及を内容とする取組方針を発表

【2016年度】

- ・2016年2月～4月に、全国16箇所の実証実験を実施
- ・実証実験を踏まえて「(一社)公衆無線LAN認証管理機構」において認証連携の仕様を策定し、利用を希望する事業者等に対して、一定の条件の下、提供

【2017年度】

- ・「(一社)公衆無線LAN認証管理機構」が管理する仕様を用いた認証連携により、20万箇所以上で事業者の垣根を越えてシームレスなWi-Fi接続を実現。

【2018年度】

- ・関係団体と連携して利用手続きの簡素化の取組について周知を図る。

第三者評価体制の有無

無

第三者評価体制・評価時期

多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証【総務省国際戦略局】

2015年度時点の課題または目標

・世界の「言葉の壁」をなくしグローバルで自由な交流を実現する「グローバルコミュニケーション計画」を推進するため、情報通信研究機構が開発した多言語音声翻訳技術の精度を高めるとともに、民間が提供する様々なアプリケーションに適用する社会実証等を実施する。これにより、ICTを活用したイノベーションを加速し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの際には、本技術を活用して「言葉の壁」がない社会をショーケースとして世界に発信する。



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

- 2015年度から、多言語音声翻訳システムを様々な場面で実用するために不可欠な雑音抑圧技術等の研究開発や、病院、商業施設、鉄道、タクシー等の実際の現場での性能評価等を実施している。
- 2015年度から2017年度まで、多言語音声翻訳システムを広く普及させることを目的として、全国各地の商業施設や観光案内等での利活用実証を実施した。
- 日英中韓に加え、タイ、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、スペイン、フランス語の旅行会話の翻訳精度の向上を図っている。

今後の取組内容、改善点

- 2019年度まで研究開発を実施し、様々な会話を高精度に翻訳できる多言語音声翻訳システムにより世界の「言葉の壁」をなくし、世界中の誰もが国境を越えて自由に交流する社会を我が国の技術をもとに実現し、世界に発信する。
- 2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会において、世界から集う選手、観客等に「言葉の壁」を感じさせることなく「おもてなし」できるよう、開発した多言語音声翻訳技術によって貢献する。

第三者評価体制の有無

有

第三者評価体制・評価時期

情報通信技術の研究開発の評価に関する会合にて評価。直近の評価は2018年3月に実施済み。

2015年度時点の課題または目標

- ・外国人等に分かりやすい情報技術を提供する
オリンピック・パラリンピックに向けて外国人を始め多様な人に対して、分かりやすく使いやすい情報等を提供する。
- ・新たな情報技術を提供する
従来までのアクセシビリティ対策を行ってきたが、情報技術(ICT)の進歩と発展(スマホの出現など)が速く、新たに整備する必要性が極めて高い。



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

- 【2015年度、2016年度】
実証実験・検証
 - ・かざして案内
 - ・プロジェクションサイン
 - ・インテリジェント音サイン
 - ・光IDサイン
- 【2017年度】
公開実証実験・検証
 - ・かざして案内(2階到着ロビー)
 - ・プロジェクションサイン(3階出発ロビー)
 - ・インテリジェント音サイン(2階シャワールーム横トイレ)
 - ・光IDサイン(2階到着ロビー)
- 【2018年度】
公開実証実験・検証
 - ・かざして案内(2階到着ロビー)→イベント開催、アンケート実施
 - ・プロジェクションサイン(3階出発ロビー)
 - ・インテリジェント音サイン(2階シャワールーム横トイレ)→5箇所導入

今後の取組内容、改善点

- 【2018年度】
 - ・システムの利用促進PR活動実施
 - ・引き続き実証実験・検証を行い本格導入を検討
 - ・新たなシステムの実証実験・検証を行い本格導入を検討
- 【2019年度】
 - ・引き続きシステムの利用促進PR活動実施
 - ・実証実験、利用者利便性の効果検証を行い本格導入を検討
 - ・新たなシステムの実証実験・検証を行い本格導入を検討
- 【2020年度】
 - ・引き続きシステムの利用促進PR活動実施

第三者評価体制の有無

有

第三者評価体制・評価時期

空港における情報UD検討委員会にて評価。直近の評価は平成29年5月に実施済み。

多言語音声翻訳・多言語筆談翻訳、手話フォン設置【日本空港ビルデング(株)】

2015年度時点の課題または目標

- ①多言語対応の更なる推進
- ②タブレット等を用いた多言語対応の取り組み



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

【2016年度】

・ターミナル案内所各所にて、タブレットを用いた多言語対応の実証実験を開始。音声認識翻訳及び通訳オペレーターに繋がるテレビ電話方式の双方に対応。

【2017年度】

・聴覚障害者向けの手話対応型公衆電話ボックス「手話フォン」を設置。

今後の取組内容、改善点

【2019年度】

・検証結果を踏まえて本格導入。

第三者評価体制の有無

無

第三者評価体制・評価時期

多言語対応【成田国際空港(株)】

2015年度時点の課題または目標

ICTを活用した多言語対応



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

メガホン型翻訳機

【2017年度】

- ・本格導入済(15台)

ハンズフリー翻訳タブレットの導入

【2016年度】

- ・実証実験を実施

【2017年度】

- ・巡回スタッフが携行するiPadでVoiceTraを運用

店舗メニューの多言語化

【2018年度】

- ・訪日外国人向け観光情報サイトLIVE JAPANのメニュー情報一元変換システムを活用し、成田空港内の店舗メニューを一括して高品質に多言語に変換
- ・7月より上記の多言語メニューのデータベースを活用し、ターミナル館内においてもデジタルサイネージとして情報発信(日・英・中・韓対応。試験設置。)

今後の取組内容、改善点

メガホン型翻訳機

- ・取り組み完了

ハンズフリー翻訳タブレットの導入

- ・取り組み完了

店舗メニューの多言語化

【2018年度】

- ・お客様の声(利用実態調査)やログ分析を踏まえて今後の展開について検討を行う。

第三者評価体制の有無

無

第三者評価体制・評価時期

高精度測位社会プロジェクト【国土交通省国土政策局】

2015年度時点の課題または目標

・訪日外国人や高齢者・障害者がストレスなく移動・活動できる社会の実現に向け、施設管理者等と連携し、屋内電子地図などの空間情報インフラの整備や、これを活用した民間事業者によるサービス実装の取り組みを促進することを目標とした。



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

- 【2015年度】
 - ・実証実験環境の整備に向けた調整を実施
- 【2016年度】
 - ・成田空港内において実証実験環境を整備（屋内電子地図の作成、測位環境の構築）
 - ・屋内ナビゲーションアプリを試作し、実証実験を実施
- 【2017年度】
 - ・実証実験環境を活用し、民間事業者によるサービス実装に向けた実証実験を実施
 - ・施設管理者による屋内ナビゲーションサービスの検討
- 【2018年度】
 - ・成田国際空港(株)が実証実験成果を活用し、屋内ナビゲーションアプリをリリース
 - ・G空間EXPOを活用した広報を実施

今後の取組内容、改善点

- 【2018年度】
 - ・民間サービス事業者や施設管理者と連携し、実証実験等を実施
- 【2019年度】
 - ・民間サービス事業者や施設管理者と連携し、実証実験等を実施
- 【2020年度】
 - ・民間サービス事業者や施設管理者と連携し、実証実験等を実施

第三者評価体制の有無

有

第三者評価体制・評価時期

高精度測位社会プロジェクト検討会にて評価。直近の評価は平成31年3月に実施予定。

鉄道アクセスの改善【国土交通省鉄道局】

2015年度時点の課題または目標

・東京圏の都市鉄道ネットワーク機能を最大限発揮するため、空港の最寄り駅や空港アクセス乗換駅について、更なるバリアフリー化や外国人対応等による結節駅の高度化を推進することを目標とした。



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

空港最寄り駅や空港アクセス乗換駅について、エレベーター設置等、鉄軌道事業者の行うバリアフリー設備整備に対し支援を実施するとともに、案内タブレットの配備や鉄道駅のナンバリング等、多言語対応を促進した。

今後の取組内容、改善点

引き続き、空港最寄り駅や空港アクセス乗換駅について、エレベーター設置等、鉄軌道事業者の行うバリアフリー設備整備に対し支援を実施するとともに、案内タブレット等の配備や鉄道駅のナンバリング等、多言語対応を促進する。

第三者評価体制の有無

無

第三者評価体制・評価時期

バスアクセスの改善(羽田空港深夜早朝アクセスバス)【国土交通省航空局】

2015年度時点の課題または目標

・羽田空港の深夜早朝時間帯の就航を促進するため、電車・モノレールの終電から始発の間に、空港と都心部を結ぶアクセスバスを運行し、深夜早朝時間帯の空港アクセスの改善を図ることを目標とした。



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

- 【2014年度】
 - ・アクセスバスの実証運行を実施(5路線、10便)
- 【2015年度】
 - ・路線数、停留所、便数を拡大し、本格運行に移行(7路線、21便)
- 【2016年度】
 - ・路線数等を維持し、多言語チラシの配布など広報の強化を実施
- 【2017年度】
 - ・停留所の新設や運行ルート効率化を実施
- 【2018年度】
 - ・路線数等を維持し、WEBを活用した広報を実施し更なる周知を図る予定。

今後の取組内容、改善点

- 【2018年度】
 - ・広報・PRの強化を実施。
 - ・LCCを運航する航空会社とのタイアップ広告や、インフルエンサー(ブlogger)による情報発信・拡散などにより、若年層・低コスト層への更なる周知を図る。
- 【2019年度】
 - ・2018年度に行った広報の効果測定を行い、引き続きアクセスバスの更なる周知を図る。
- 【2020年度】
 - ・引き続きの周知を行う。
 - ・2018年度から3カ年度かけて行った周知策の効果を図るため、羽田空港において利用者アンケートを実施する。

第三者評価体制の有無

有

第三者評価体制・評価時期

東京国際空港の深夜早朝時間帯におけるアクセスバス運行協議会にて評価。
直近の評価は平成31年3月に実施予定。

バスアクセスの改善(国家戦略特区の空港アクセスバス)【国土交通省自動車局】

2015年度時点の課題または目標

・増加が見込まれる観光・ビジネス需要に、迅速かつ柔軟に対応するため、国家戦略特区内の空港アクセスバス事業に係る手続の弾力化、制度の活用を図る。



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

【2014年度】
国家戦略特区内の空港を発着するアクセスバスについて、区域計画に定められた国家戦略特区空港アクセスバスに係る特例の取扱いについて通知。

今後の取組内容、改善点

【2018年度以降】
国家戦略特区の空港を発着するアクセスバスについては、今後、東京圏における空港アクセスバスに係る区域計画が作成された際に対応。

第三者評価体制の有無

無

第三者評価体制・評価時期

2015年度時点の課題または目標

・訪日外国人等のスムーズな移動、観光等の実現に向け、スマートフォン、交通系ICカードやデジタルサイネージ等と、共通クラウド基盤を活用した多様なサービス連携を目指す。



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績	今後の取組内容、改善点
<p>【2015年度】 2020年社会全体のICT化推進に関する懇談会 都市サービス高度化ワーキンググループにおいて検討開始。</p> <p>【2016年度】 共通クラウド基盤の構築および都内4地区における地域実証を実施。</p> <p>【2017年度】 共通基盤の機能の高度化及び地方観光都市においても地域実証を実施。</p>	<p>【2018年度】 社会実装に向けて共通クラウド基盤への情報の登録方法等、実運用に必要なプロセスを検証するとともに、多様なサービス提供者の参画・事業展開を推進するための周知等を行う予定。</p> <p>【2019年度以降】 「IoTおもてなしクラウド事業」の認知度の向上・普及展開に向けた取組を推進。</p>

第三者評価体制の有無
無

第三者評価体制・評価時期

次世代双方向型デジタルサイネージ【成田国際空港(株)】

2015年度時点の課題または目標

フライト情報、館内情報、地上アクセス情報など、ターミナル館内で必要な情報をワンストップ提供



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

今後の取組内容、改善点

【2017年度】

- ・2017年10月1PTB ビジターサービスセンター及び第5サテライトにトライアル設置。(全4台)
- ・お客様へのアンケート調査等を通じて使い勝手の検証を実施。(1月)

【2019年度】

- ・2019年6月を目途に全ターミナルに整備予定。

【2018年度】

- ・2019年6月の全ターミナルへの展開に向けて、改善項目の洗い出し・発注を実施

第三者評価体制の有無

無

第三者評価体制・評価時期

光ID・かざして案内【東京国際空港ターミナル(株)】

2015年度時点の課題または目標

・訪日外国人等のスムーズな移動、観光等の実現に向け、スマートフォンやデジタルサイネージを活用した多様なサービス連携を目指す。



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

【2015年度、2016年度】

- 実証実験・検証
- ・かざして案内
- ・光IDサイン

【2017年度】

- 公開実証実験・検証
- ・かざして案内(2階到着ロビー)
- ・光IDサイン(2階到着ロビー)

【2018年度】

- 公開実証実験・検証
- ・かざして案内(2階到着ロビー)→イベント開催、アンケート実施

今後の取組内容、改善点

【2018年度】

- ・システムの利用促進PR活動実施
- ・引き続き実証実験・検証を行い本格導入を検討
- ・新たなシステムの実証実験・検証を行い本格導入を検討

【2019年度】

- ・引き続きシステムの利用促進PR活動実施
- ・実証実験、利用者利便性の効果検証を行い本格導入を検討
- ・新たなシステムの実証実験・検証を行い本格導入を検討

【2020年度】

- ・引き続きシステムの利用促進PR活動実施

第三者評価体制の有無

有

第三者評価体制・評価時期

空港における情報UD検討委員会にて評価。直近の評価は平成29年5月に実施済み。

ロボット社会実装プロジェクト【経済産業省】

2015年度時点の課題または目標

・成田空港・羽田空港において、翻訳・道案内サービスを行うコミュニケーションロボットの活用に向けた検討、等を行い、日本の優れた技術や取組を世界に発信していく。



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

- 【2016年度】
 - ・ロボット革命イニシアティブ協議会において、「生活支援ロボット及びロボットシステムの安全性確保に関するガイドライン(第一版)」を整備。
 - ・成田空港において、旅客手荷物の取扱い業務へのパワーアシストスーツ導入に係るフィージビリティスタディを実施。
 - ・羽田空港において、清掃、移動支援、案内分野のロボットの導入実証を実施(17種類)。
- 【2017年度】
 - ・成田空港において、サイネージ用ロボットの導入実証を実施。
 - ・羽田空港において、警備、物流、翻訳分野のロボットの導入実証を実施(7種類)。
- 【2018年度】
 - ・成田空港・羽田空港において、ロボットの社会実装に向けた自主的な取組を実施。

今後の取組内容、改善点

- 【2019年度】
 - ・公共空間でロボットを活用したサービスの安全確保のために事業者が満たすべき事項をとりまとめ、JIS化を行う。

第三者評価体制の有無

有

第三者評価体制・評価時期

- ・「ロボット導入実証事業」全体の枠組みの中で審査委員会において評価。直近で平成30年3月に実施。
- ・成果としてロボット導入実証事業事例紹介ハンドブックを公開。

ロボット実証実験プロジェクト【日本空港ビルデング(株)】

2015年度時点の課題または目標

- ①日本の玄関口である羽田空港から世界に向けて日本の技術を発信
- ②空港利用者に対する安全・安心・便利を前提とした良質なサービスを提供
- ③空港従業員がより働きやすい環境を創出



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

【2016年度：第1期実証実験】

- ・案内・清掃・移動支援の各カテゴリでロボットを公募型で選定し、国内線旅客ターミナルにおいて、実証実験を実施。
- ・プロジェクト推進にあたり「Haneda Robotics Lab: 略称HRL」を創設、ホームページやFacebook、講演会等で継続的な情報発信を開始。

【2017年度：第2期実証実験】

- ・警備、物流、翻訳の各カテゴリでロボットを公募型で選定し、国内線旅客ターミナルにおいて、実証実験を実施。

【2018年度：試験導入】

- ・第1、第2期選定ロボットの内、一定の導入効果が見込まれるものを対象に試験導入を実施(清掃・案内、8月以降順次)。
- ・10月 経産省主催「World Robot Summit」、11月「Future Travel Experience ASIA EXPO(@シンガポール)」において HRL 参画事業者と共にブース出展し、取り組み状況等を情報発信。

今後の取組内容、改善点

【2018年度：試験導入】

- ・第1、第2期選定ロボットの内、一定の導入効果が見込まれるものを対象に試験導入を継続実施。

【2019年度：実導入開始】

- ・2018年度の試験導入ロボットの内、導入効果が確認できたものから実導入を順次開始。

【2020年度】

- ・ロボットを活用した業務・サービスに係るオペレーション習熟
⇒ショーケース化

第三者評価体制の有無

無

第三者評価体制・評価時期

業務支援ロボット【成田国際空港(株)】

2015年度時点の課題または目標

現場業務支援ロボットの導入(パワーアシストロボット)



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

- 【2016年度】**
 - ・導入効果の検証を実施(2017.1.24-2.18)
- 【2017年度】**
 - ・検証結果を空港内事業所に広く周知し導入促進
 - ・航空会社においても本格導入に向けた検証を実施

今後の取組内容、改善点

- 【2018年度—2019度】**
 - ・業務効率化・省力化に資するロボット等の導入検討の継続

第三者評価体制の有無

無

第三者評価体制・評価時期

サービスロボット【成田国際空港(株)】

2015年度時点の課題または目標

お客様サービス支援ロボットの導入



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

【2017年度】

- ・自律走行型のサイネージロボットとしての有効性を検証。(2018/1/15～2/26)
本ロボットと固定型デジタルサイネージとの視線量を定量的に比較・評価。約7倍の視線量を集めることが判明。
- ・液体物の機内持ち込み制限の告知や広告等への活用について検討。

今後の取組内容、改善点

【2018年度】

- ・実用化に向けた検討をメーカーと連携して実施。

第三者評価体制の有無

無

第三者評価体制・評価時期

トイレの使用方法、マナー向上等の取組【国土交通省総合政策局】

2015年度時点の課題または目標

・トイレの行列解消、清潔性や快適性などの改善に向けて、マナー向上の啓発を図ることとした。



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績	今後の取組内容、改善点
<p>【2015～2016年度】</p> <ul style="list-style-type: none">・トイレ等の環境整備・利用のあり方に関する調査の実施、方向性のとりまとめ及び公表 <p>【2017年度】</p> <ul style="list-style-type: none">・多機能トイレの利用マナー啓発のためのポスター及びチラシの作成 <p>【2017年度～2018年度】</p> <ul style="list-style-type: none">・公共交通機関等の協力を得て、多機能トイレの利用マナー啓発のためのポスター掲示及びチラシの配布によるキャンペーンを実施・バリアフリー教室やシンポジウムにおいて、多機能トイレの利用マナー啓発のためのチラシを配布	<p>引き続きキャンペーンの実施やバリアフリー教室等を活用し、多機能トイレの利用マナー啓発の取組を実施</p>
第三者評価体制の有無	第三者評価体制・評価時期
無	—

ユニバーサルデザインに配慮したトイレの整備【成田国際空港(株)】

2015年度時点の課題または目標

- <課題>
- ・旅客ターミナル内お客様用トイレの設備の陳腐化、老朽化が進行
 - ・トイレブースが狭く、スーツケースやベビーカーを持ち込めない
 - ・多機能トイレに機能が集中し利用者が増えたことから、多機能トイレしか利用できない方が長時間待たされてしまう
 - ・温水洗浄便座設置率が100%ではない



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

- <取組内容>
- ・旅客ターミナル内全てのお客様用トイレのリニューアルを実施
 - ・各種ガイドラインに則り、全てのトイレに音声案内、フラッシュライト、L型手すり等のUDを導入
 - ・全ての便器に温水洗浄便座を設置
 - ・スペースに余裕のあるトイレについて、ブース拡張、多機能トイレの機能分散を実施
- <実績>
- ・温水洗浄便座化工事 ...2015～2017年度
 - ・トイレリニューアル工事(第2ターミナル) ...2015～2018年度
 - ・トイレリニューアル工事(第1・3ターミナル) ...2016～2019年度

今後の取組内容、改善点

- ・第1・3ターミナルにて実施しているトイレリニューアル工事を、2020年3月までに完了させる。
- (参考:リニューアル後の第2ターミナル到着ロビートイレ)



第三者評価体制の有無
有

第三者評価体制・評価時期
成田空港ユニバーサルデザイン推進委員会にて確認(2018年11月5日)

ユニバーサルデザインに配慮したトイレの整備【日本空港ビルデング(株)】

2015年度時点の課題または目標

ユニバーサルデザイン(UD)に対応した多機能トイレの整備を進める。



課題、目標に対する2018年度までの取組内容・実績

【2016年度】
国内線第1ターミナル到着ロビーにて「多目的レストルーム」の設置。広々としたパウダールームにお着替えに便利な更衣室、授乳室やキッズトイレ、補助犬(盲導 犬、聴導犬、介助犬)専用トイレなどを設けたほか、車いすのお客様やスーツケースをお持ちのお客様も快適にご利用頂けるよう、トイレブースに十分なスペースを確保。

【2017・2018年度】
ターミナルリニューアル工事における多機能トイレの拡充を検討。

今後の取組内容、改善点

【2019年度】
・引き続き、ターミナルリニューアル工事における多機能トイレの拡充を検討。

第三者評価体制の有無

無

第三者評価体制・評価時期